

つがるの昔っこ (昔話) ⑤

餅コがベゴになった話

(津軽弁Ver.)



国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：つしま けいこ



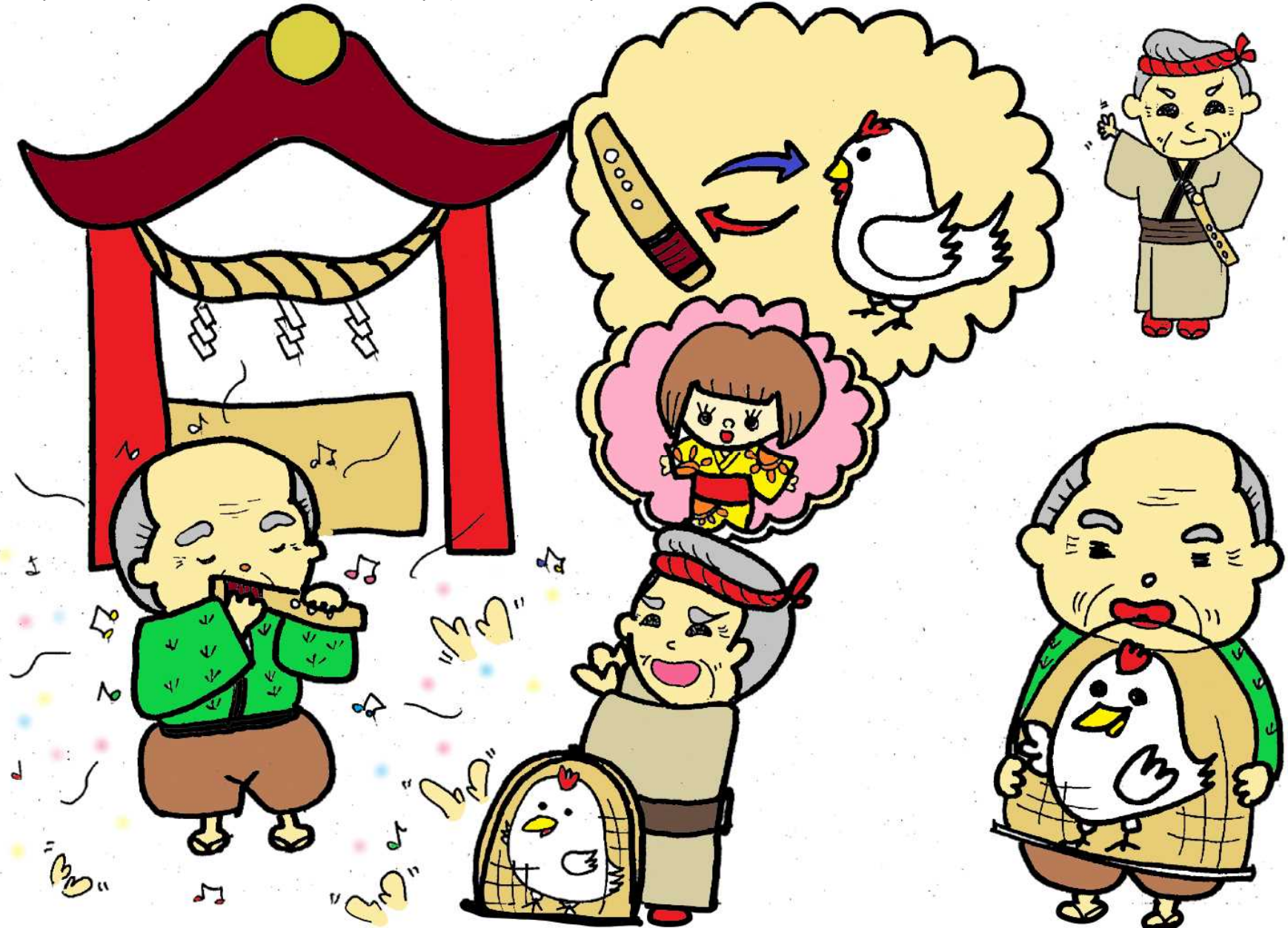
むがし、ある村さ ころ(心)の優しいじさま (おじいさん) ど ばさま (おばあさん) ど いでたど (おりました)。じさま、ばさまの作ったもちコ (餅) たないで (担いで)、街の神社の初詣さ行ったど。途中まで来たつきや (来ると)、腹減らがして、「うんうん」て、うなってる男いだんだど。じさま、気の毒に思っって持っていた餅コば かへでやったど (食べさせてあげました)。

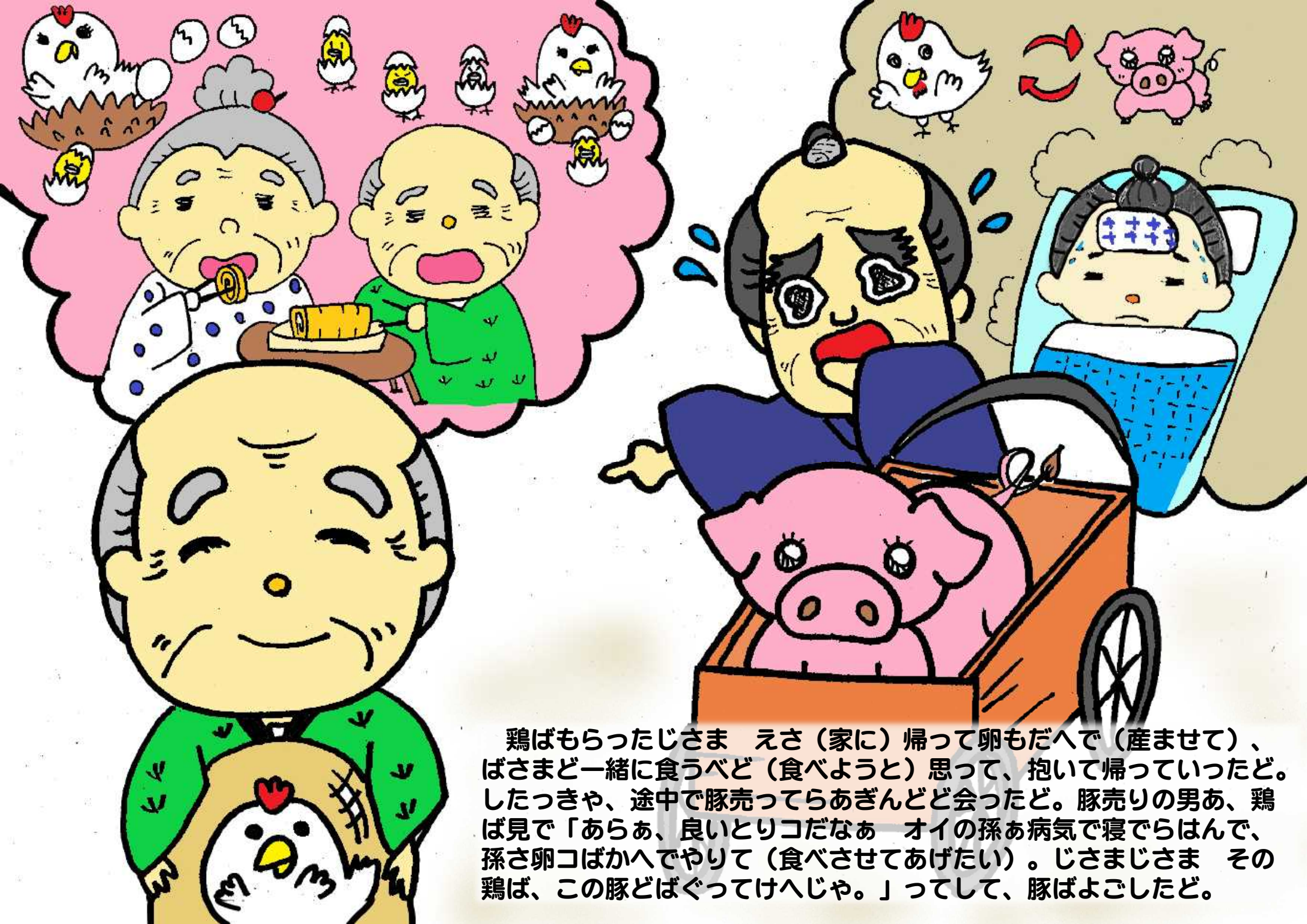


むったむった（むしゃむ
しゃ）むったむったむった
むったむった ペろっと餅コ
食った男あ「おかげさまで、
やっとで元気でした（出てき
ました）。わ（私）じえんこ
（お金）も何もねはんで（な
いので）お礼にこの笛コばあ
げすじゃ（あげます）。」っ
てして、腰さつけでら笛コが
抜いで じさまさけだど（あ
げました）。

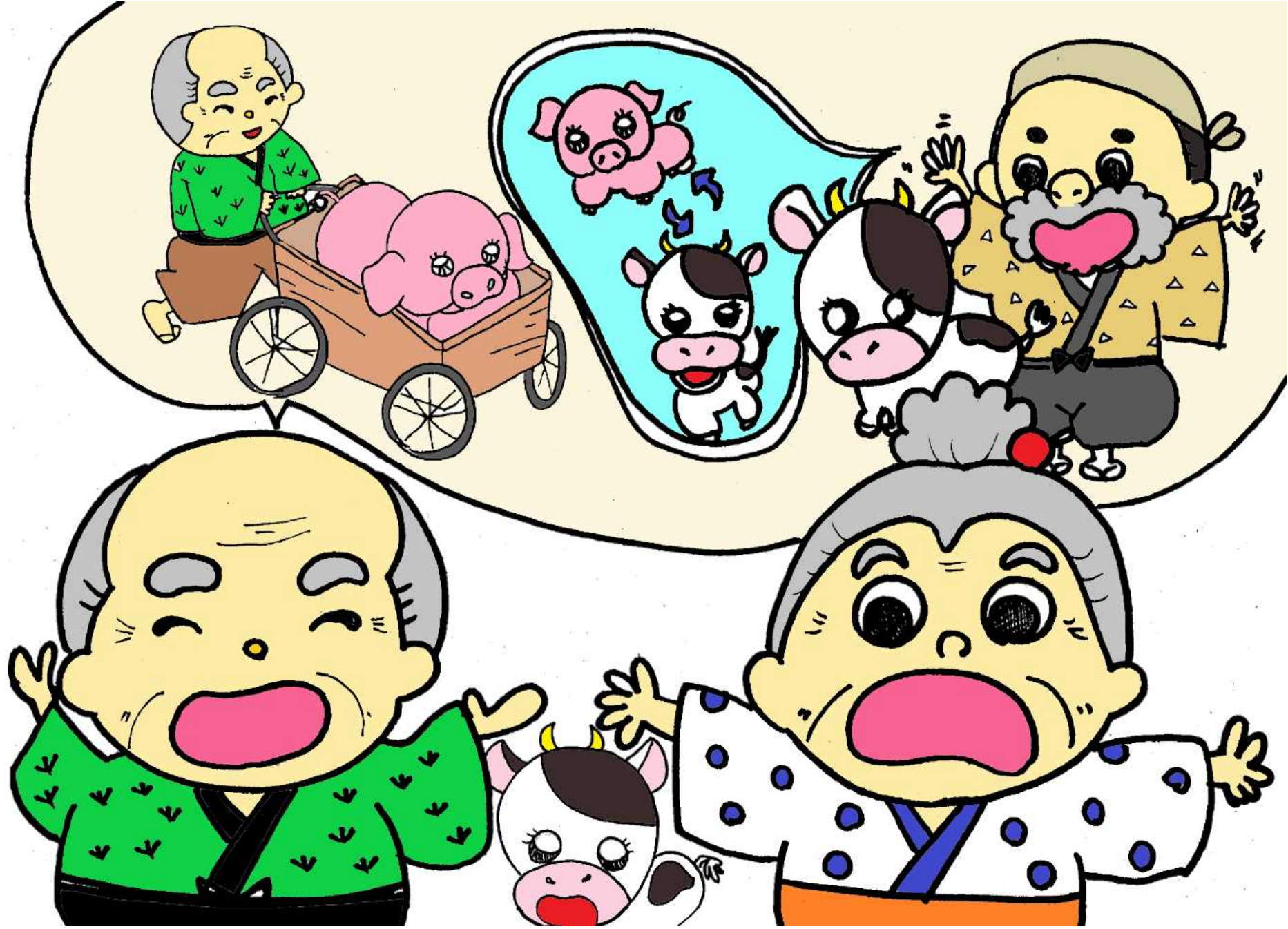


こうして笛コばもらったじさま、神社さ着いでお参りしたど。「神様、餅コの代わりに わあの笛コを聞いて
けへじゃ（聞いてください）。」って、ピ〜ヒョロピ〜ヒョロピ〜ピ〜ヒョロピ〜ヒョロ〜って笛コ吹
いだんだど。いい音コであったど。じさまの笛コば聞いた、鶏売りのあぎんど（商人）が「なんぼいい（なん
ていい）音コだば。こしたに（こんなに）いい笛コだば おい（うち）の めごい（かわいい）孫さ土産にやり
てはんで、じさまじさま その笛コばこの鶏ど ばぐってけへじゃ（交換してはくれませんか）？ってして、こ
ろっと肥えだ（太った）鶏ばよごしたど（くれました）。





鶏ばもらったじさま えさ（家に）帰って卵もだへで（産ませて）、
ばさまと一緒に食うべど（食べようと）思って、抱いて帰っていったど。
したっきや、途中で豚売ってらあぎんどど会ったど。豚売りの男あ、鶏
ば見で「ああ、良いとりコだなあ オイの孫あ病気で寝でらはんで、
孫さ卵コばかへでやりて（食べさせてあげたい）。じさまじさま その
鶏ば、この豚どばぐってけへじゃ。」ってして、豚ばよごしたど。



今度あ、じさま豚ば ぶばて（連れて）、まだずっと あさいでいたど（歩いておりました）。そうして たげ 来たつきや（だいぶ進むと）向こうがらベゴ（牛）の子ぶばた男きたど。「わいっ、わ今、このベゴの子ば売って、豚買いに行くべど思って来たんだね。ちよんどいいはんで（丁度いいので）その豚コど このベゴコばぐってけろじゃ。」ってして、ベゴばよごしたど。じさま帰るまでに餅コあベゴになってまったんだど。



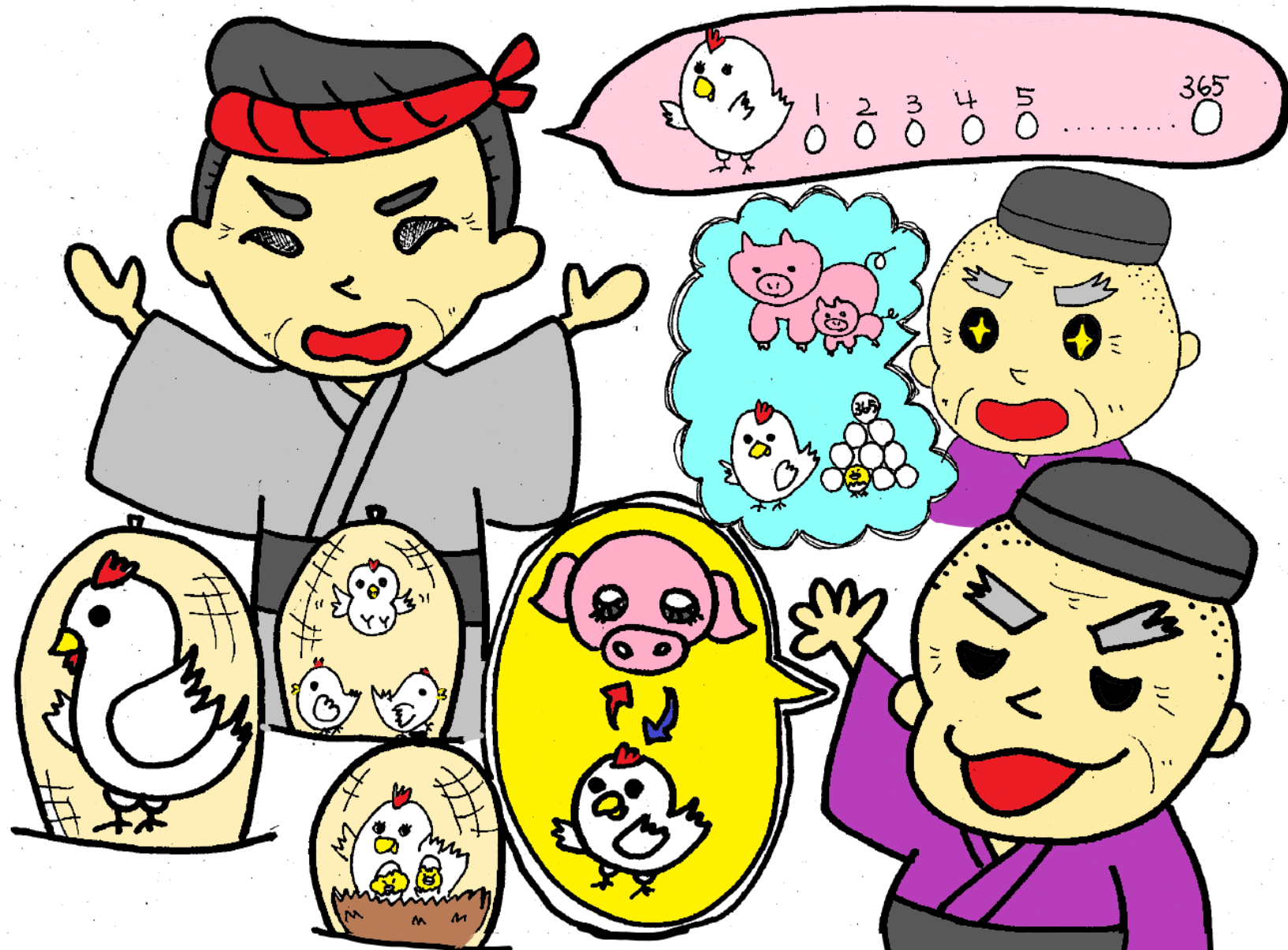
さあ、この話は聞だ隣村の よぐたがれずっこ
(欲深いじいさん)「なになに? 餅コがベゴに
なったってな? ううん へば (じゃあ) わあベゴは
連れていって、もっという物どばぐってくる
べ。」ってして、一番良いベゴばふばて街さ行った
ど。

街さ来たきや ふとたがってらどごあつたど（人だかりがありました）。よぐたがれずっこだもの、何だべって、のぞいで見だきや そりや豚売りのあぎんどが豚の子っこば売ってらどごであつたど。「さあさあこの豚の子1年飼ってみへ。来年の春になれば生まれる子っこ13匹だ。13匹だよ～13匹も子っこ生まれれば大もうけだべねな～ さあ 買っていげじゃー」

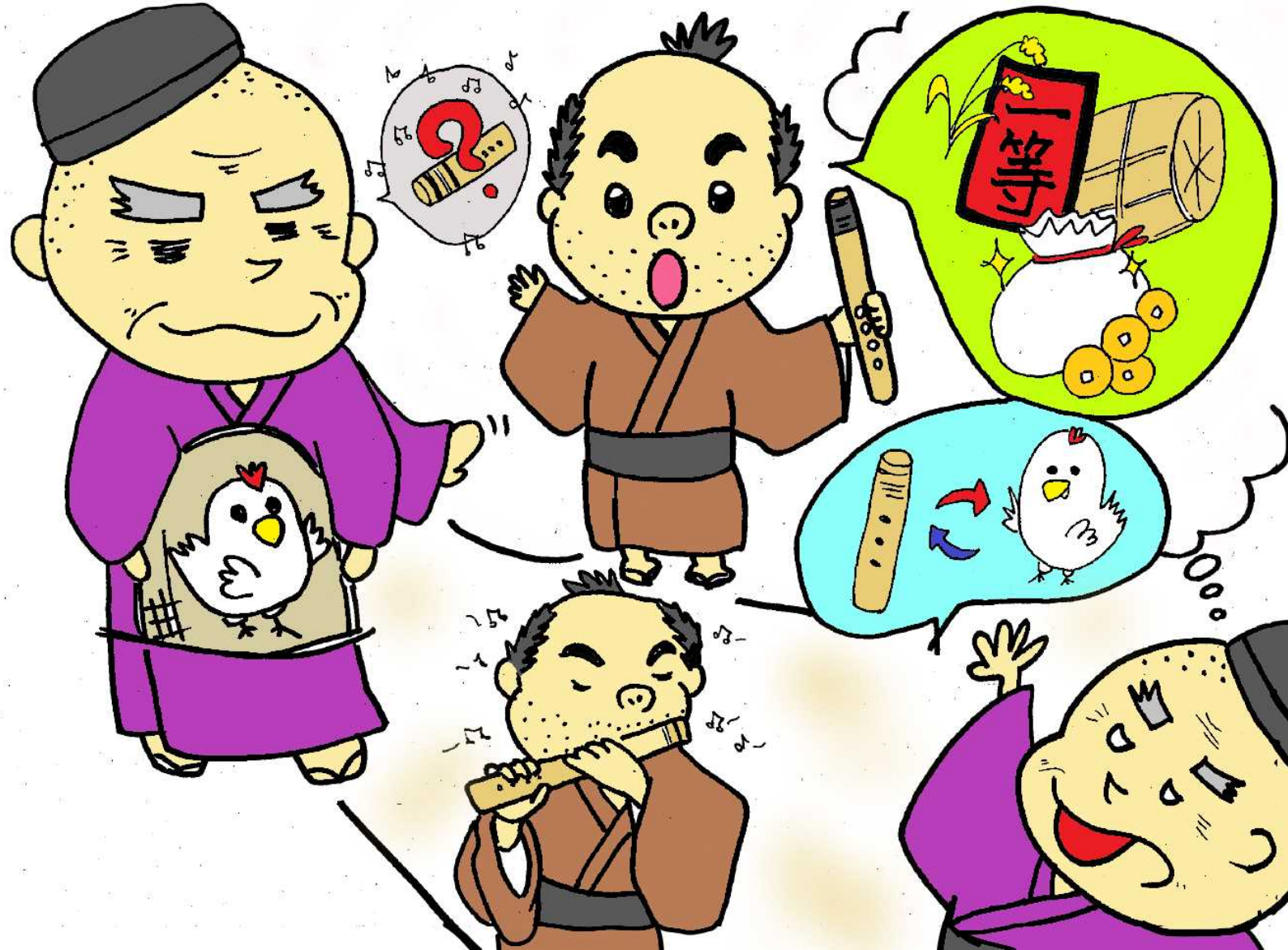


さあ それ聞いた欲張りずっこ 欲の皮ブグブグど膨らんできて、「とっちや（父さん）とっちや、その豚とば このベゴどばぐってけろじゃ。」ってして、豚の子どベゴば ばぐつたど。「ベゴあ1匹しか子っこ持だねばって、豚13匹も持つ。こりや儲げた儲げた」って、にぐにぐど（にこにこと）笑いながら まだずつとあさいでいったど。

したっきや鶏売り、鶏コ売ってあったど。「さあさあ 鶏コ買っていがねが（いきませんか）？この鶏あ良
い鶏だ〜。買っていけば今日から毎日毎日良い卵コを持つよ。毎日持でば、1年に卵300ど65個だ。36
5でせ。さあ買ってげじゃ買ってげじゃ！」って叫んでらど。



欲張りすっこの欲の皮、まだぶっくらぶぐらど膨らんできたすおんなあ「ん〜豚の子だば1年待だね
ば子っこ持だねばって、鶏だば今日からでも一年中卵持つ。こりゃ、豚よりも鶏のほづ（方が）得だが
もわがね（しれない）。」ど思て、今度あ豚の子と鶏ばばぐってもらったど。

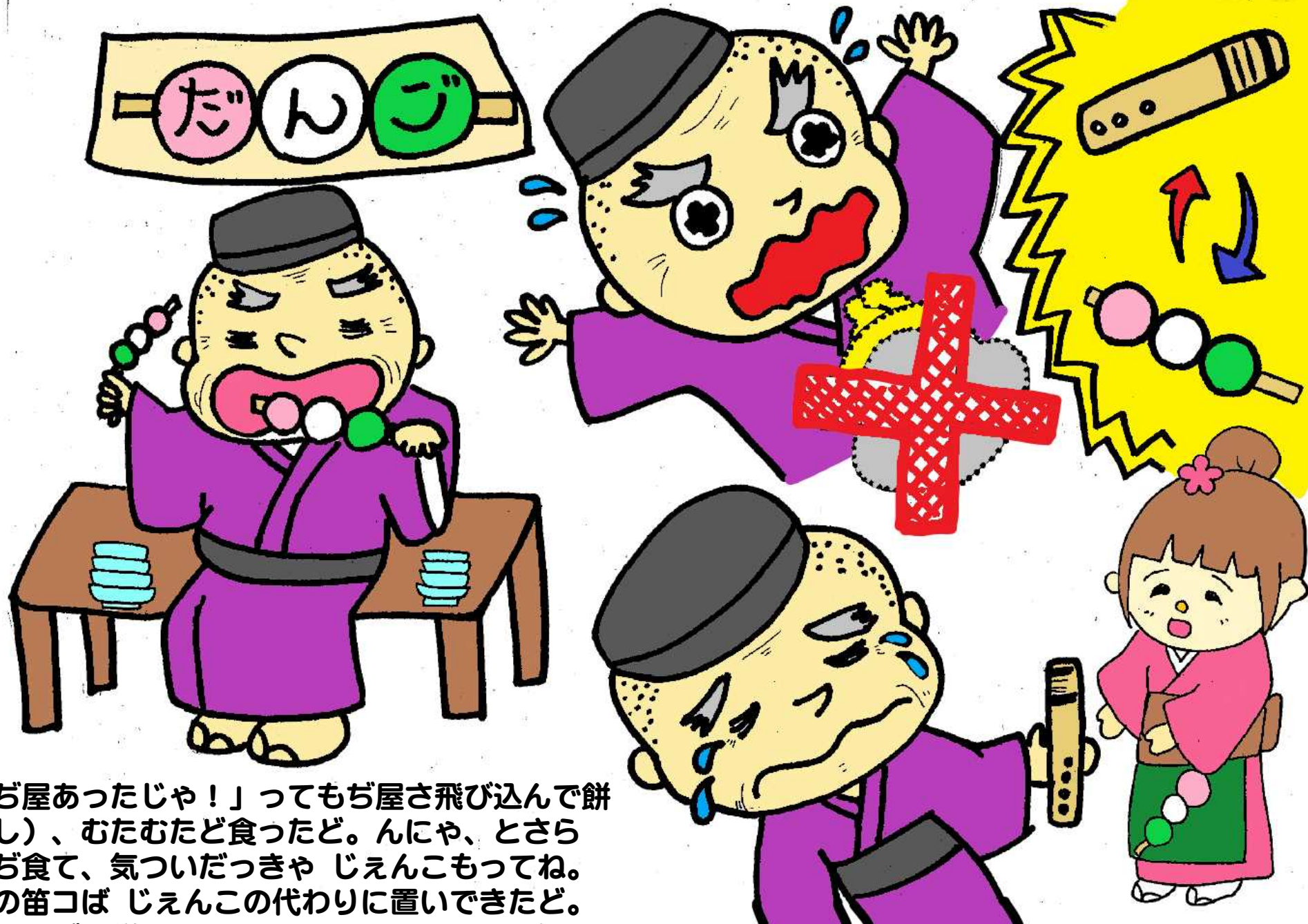


さあ、欲張りすっこ、こうして鶏ば抱えて街外れまで来たきや、今度あぴ〜ヒョロピ〜ヒョロロピ〜ピ〜ヒョロロピ〜ヒョロロ〜って笛コ吹いでら男がいだど。よくたがれずっこ「こらこらあんこ（兄さん）まんだ祭りでもねのに なして（どうして）笛コ吹いでらんだば？」ってしたきや「今年の秋のお祭りには、笛吹き大会あってよ 1等とればじえんこだの米だの のそらっと（たくさん）もらえるんだね。わあそれば獲るべど思って今がら稽古してるんだ。」

さあ、それ聞だずっこ まんだまだ欲の皮ブクラブクラど膨らんできたど「んだ わも わげこらあ（若い頃は）笛吹がへれば村一番って さいだもんだでば（されたものだ）、今がら稽古へば その賞金ど、賞品haおらのもんだでば！」つうわけで、その笛ば無理矢理鶏とばぐってもらったど。



よぐたがれずっこぴ〜ヒョロロピ〜ヒョロロピ〜ヒョロロピ〜ヒョロロ…って歩きながら吹いでたきや、し
(日) 暮れでまって、ばげ(晩)になってまったずおん。ほれ朝ま早くがらベゴふばて、遠ぐの街まで来たも
んだもの、もう腹ふえて(お腹がへり)はらふえて、まなぐ(目)回ってきたど。笛を吹ぐどごだが、あっ
ちゃヨロヨロ、こっちあヨロヨロヨロって、もうふとあしも(一歩も)歩げなくなったきや、ちよんどそごさ
もち(餅)屋あってあったど。



「わい、もち屋あったじゃ！」ってもち屋さ飛び込んで餅たので（注文し）、むたむたど食ったど。んにや、とさら（十皿）ももち食て、気づいだっきゃ じえんこもってね。とうとうその笛コば じえんこの代わりに置いできたど。「ああ おらのベゴあ餅コになってまったじゃ、」欲張りずっこあ なぎべっちょ（泣きベそ）かいで、とぼらとぼらて（とぼとぼと）えさ（家へ）戻って行ったんだど。人ずものあ、あんまり欲へば（すると）、まいねんず（だめだ）ず話コだ。

トツチパレコ